

会議録

審議会名	第1回 生涯学習審議会
開催日時	令和2年12月16日(水) 午前10時00分～11時30分
開催場所	杉戸町役場 第2庁舎2階 第1・第2会議室
会議の議題	(1) 令和2年度における社会教育課実施事業について (2) その他
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ 非公開 (公開の場合傍聴者数 2人)
	(非公開の場合理由)
出席者氏名	都築文明、沢村万里子、寺田竹雄、浅井宰、齊田壮市、大島斎禮、仁部弥生、青木光一、新田まき子、小林晃、伊藤馨(敬称略)

審議の概要

議題(1) 令和2年度における社会教育課実施事業について

(各担当から各々の取組とこれからの事業について資料による説明)

- ① 社会教育担当 ② 人権教育担当 ③ 町史・文化財担当 ④ スポーツ振興担当
⑤ 公民館担当 ⑥ 生涯学習センター・図書館担当

委員からの主な意見

(委員) 心配なのは、学校がないということになると、生徒達子どもは目標がなくなってしまう。そのような中、無理に励ましてあまり効果が出ないものである。それよりも、「学校は楽しい」「学校は面白いことがあるな」と感じさせるようにもってゆき、今、「何ができるか」ということで子ども達に興味・関心を与えてゆくのかというのを考えると、子ども達もやる気が出るのではと思う。

(委員) はじめから学校の方はストップしている状態なので、不安が大きい。今年、多くの行事が中止となってしまった。子ども達はつらい思いをしたと思う。ただ、コロナ禍だからいろんなことができなかったというのではなく、コロナ禍だからこそ気づくこともたくさんあったと思い、それを糧にして、子ども達には頑張っていってほしいと思っている。

(委員) 「今できることは何か」というのが大切だと思う。委縮するのではなく、今どうすれば何ができるかを考えるのが大切だと思う。生涯学習審議会について言わせていただきたい。まだ準備ができていないこともあるから、すぐにとは言わないが、議論は事業から入るのではなく、構想や基本計画などから入っていくべきだ。そうでなければ、大事なことが見えてこないと思う。

(委員) みんなコロナ禍のこの環境に、慣れてきてしまっているように感じている。ただ、羽目を外すと危ないと思う。いい意味で言えば、皆がコロナを警戒するので、風邪をひく人間が減った。そう考えると、いい意味で慣れてきたのではないかなと思う。喜んでいいことなのかはわからないが、そう感じている。

(委員) 先ほど事務局から報告があったように、イベントや活動がほとんど中止だが、できることは少人数で密にならないように活動している。ただ、現在活動に参加をしたくてもできないような方も見受けられる。将来的にコロナ禍から正常な日常に戻った際、どうなってしまうのかということに危惧している。今後ワクチンの接種も始まるが、コロナ禍はすぐには終息することはないと思う。そのような中、一日も早く平常な状態に戻るように祈りつつ、皆さんとともに悪い状況を打破していきたいと考える。

(委員) 西公民館にてサークルに所属している。今年は西公民館の文化祭の担当だったが、文化祭は中止になってしまった。文化祭がなかった影響というのは大きく、またいろんな活動を続けてきた人やサークルなどが、コロナがきっかけとなり、やめてしまうというのを見てきた。コロナが終息し、元の日常に戻っても、その人達が戻ってこれるのか、そのような人達の、生涯学習における将来的な悪影響を心配している。

(委員) はじめてこのような会議に参加させていただいたが、生涯学習の範囲の広さに驚いているところである。現在、ほとんどの事業が中止になっているが、スポーツ系は難しいのかもしれないが、文化系の団体などは、インターネットによるリモートなどの活用による開催とかそういったことも、今後有効な手段に値するのではないかなと感じる。

(委員) あらゆるイベントや催し物があるのかに驚いている。他の委員も発言していたことだが、ひとつひとつの事業について話し合うのか、それともそれからの杉戸町の生涯学習はどうなるのかを考えてゆくのかということを見極めるのが大事かと思う。今後はコロナと共存しながら、前向きにコロナ時代の生涯学習というものを検討してゆくことが大事だと思う。

(委員) 子どもを預かる立場として思うのは、社会全体が巣ごもりの状態になっているので、このような時こそ、少人数かつ屋外でなら、催し物ができるのではないかなと思う。このような時に少人数でじっくり丁寧に教えることができる状況というのは、初心者の人を

取り込む良い機会となりえるのではないかと。今までになかった発想で事業を行う良い機会であり、またそのような工夫が必要であると思う。行動はできなくとも、構想ならできることだってある。基本・全体構想や年代別の施策や計画を考えるのには、いい時期なのかなと思うので、次年度又は今後、作ってってもらいたいと思う。

(委員) 杉戸町では県展への作品応募を行っており、県展入選作品展を開催しているが、それ以上に日展への挑戦を行っている。昨年も今年も入選した人がいる。今年は初入選の人も出たが、発表の場がないので、3月の美術家協会展への出展ということになった。県展そのものは中止になったが、日展は開催した。やめるのは簡単だけど、築き上げてきたものを元と同じような状態に戻すのは大変である。今は次に向けて色々準備をする時期なんだと考えを切り替えていくことが大事だと思う。

(委員) 去年もお願いしたと思うが、日展の入選作品展も是非加えていただきたい。

(事務局) 検討させていただきます。

(教育長) 会議総括

失礼いたします。感じた事を申し述べさせていただきます。年が明けてあつという間に世界中が危機に襲われ、今までの社会とは全く違う価値観の社会となってしまいました。大人も子どもも、今年の経験を糧にしていけないと感じております。生涯学習はとても広いもので、人生百年時代と呼ばれる中で、人間は学び続けなくてはならないということで、生涯学習というものを考えていかなければならないなと思います。ただ、今年は今までのやり方が全く通用しない年になってしまいました。来年のことについて申し上げるならば、考えて行動しなければならぬと考えております。現在新型コロナウイルスに対しては、有効なワクチンが普及していませんし、また特効薬も見つかっていない状況です。ですが、だんだんとわからなかったことが明らかになっています。ですので、正しく恐れるというのは大切だと感じており、そこを考えて来年度に向かってゆく必要があると考えております。委員の皆さんのご意見を多数いただいて、どういう形で、やれることについては来年はやっていかなければならないと考えますし、次のステップへ進まなければいけないと考えています。現状を見極め、そのうえで今の状況で何ができるのかを考えて行動してゆくことが大事であると認識しており、先ほど申し上げましたようにご意見を沢山いただきながら、我々の方でも事業を考えて次の年に生かしてゆきたいと考えております。今後ともどうぞよろしく願いいたします。